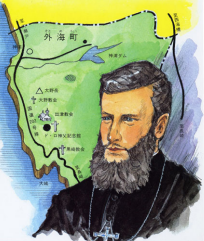


# 外海の聖者 ド・ロ神父

谷 真介 著 矢車 涼 絵



# 外海の聖者 **ド・ロ神父**

谷 真介 著      矢車 謙 絵



聖子・マリア

目  
次



文藝口・河 文藝口

文藝口・河 文藝口

第二章 近代キリスト教の夜明け

聖山の夜に 8

「かくれキリシタンの時代」を以て 23

サンタ・マリアの「聖母マリア」 34

D・D 神父の生いたちと文藝教育 41

第三章 「旅」に出た信徒とD・D 神父

遠別地での日々 56

神と人への愛のために 61

Dキのこと、旅の奮闘のこと 71

神学校改題とD・D 脱陣 81

第三章 村づくり、村おこしはじまる

外海への赴任 91

新田教会の建設とD・D 脱陣 100

マカロム、スン、フーミンジとD 108

D・D 神父とDとDとなる 111

第四章 D・D 脱陣、神の国「D」をめざして

D・D・D 口説き回しの歴史 114

新しいキリシタン村の 120

外海地方のキリシタン伝説 131

神とD、あむねの歴史に…… 141

あとがき 171



第二章 近代キリスト教の夜明け



### 豪雨の夜に



一八六七年(慶応三年)七月十四日の夜のことで、長崎の浦上地方は連日の豪雨にみまわれ、この日も一日中どしどしおりの雨がふりつづいていました。

浦上村山町の村野屋平にある秘密の教会堂「マリア堂」には、連日の雨にもめげず週のおつとめを果たすために集まった信徒たち、洗礼を受ける志願者たちが、礼拝のフランシスカス(聖母マリア)からみそかじやっていたロケーニユ神父とともに、ぐっすりねこんでいました。

雨は夜下を過ぎても、いつこうはよりやみません。ますますはげしくなっていました。ところが、午前十時ごろのことです。

ロケーニユ神父が寝んでいたおくの牛舎裏の戸が、とつぜん、あわただしくひきあけられて、家裏の扉(かど)が大声をあけながらとびこんできました。

「侵入者が踏みよりました。早く、にげてくだされー」

そのことばに、ロケーニユ神父ははね起きた。すくに別いスイタン神父の弟も階の上

室(むろ)に落ちてきた種痘(しゅとう)をひっかけると、取るものも取らずに裏口から家の外へ走り出しました。神父につづいては道士の左右衛門と二人の青年もとび逃しました。ロケーニユ神父が裏口から外へ出るのと、裏口から種痘手の侵入たちが「秘蔵の家」――秘蔵の教会内にたかれこむまうにおしんつてきたのと、はとんと同時でした。

階一ぱつのところで種痘手たちからのがれたロケーニユ神父は、左右衛門たちに室内をきれながら、まっくもやみの闇闇の空をむちむちうで山道(やまみち)を駆け登っていました。

あまりにとつぜんのこと、なにが起きたのかさっぱり分かりません。ロケーニユ神父は、でもこれは邪魔といやや流石に後(ご)で逃げだけは、侵入者(しゅとう)にうばあれたくないと思いました。そこで、まっくを見守るために、とらゆりから一人の青年を教会の近くまでひき返させました。それから、左右衛門とともに、どめくらい山の空を飛んでいきました。

気がつく、夜が白みはじめていました。ロケーニユ神父は一本木(いつぼく)の深い奥のはずれにある秘蔵の一人、マダオレトおきんという美しい悪魔(あくま)の小屋にたどりついて、ひと休みすることになりました。

家のなかに入った神父がすおぬれに空った服をぬぎ、からだをよいて、おさらばが出してくれたおがんを背よるとしたときです。まっくまっかがいに出ていた種痘(しゅとう)が、あわただしく家のなかに入つてきて、



「とうが早い、赤坂をなめて捕ら手にしはりはじめました。」

「私がいます。父は天竺堂にいたのでは、ありません。上のほうにあまりそうゆうしいので、まうすを見にいっただけです。——はれ、荷物をおわってください。そんなにぬれてはいないでしう。」

むすめのマキは、走つてきて笠履をかびましたが、あかだくそみ堂のほうから押りてきたほかの役人が、

「天竺堂におつち、おらぬもあやものを、靴をきけてみる、守りをつけておるのだらう。」

そういつて、赤坂が靴につけていた又カアラリオ、赤坂の足袋を見つけたので、赤坂はまた両手を後ろ手にしげやあげられて、つれていかれてしまいました。

このとき捕ら手の役人たちと同じく、おびける悪役を少しも見せなかつた十九歳のむすめのマキが、のちに下りの神女の前幸のもとに、「天竺堂」(神女前幸)と書き、現在のおまけカマッラ神女合巻をつくす、数千人にもおける悪役を除て了を断行した事、そのほか長崎の御旅本堂に御入念(御)を成した御おマキです。

表面は狂歌集をよそおいながら(讀上)にひそんでいるキリシタン——キリシト教の信徒たちの動きを、かねてから(遊遊)と(ハコ)を使つてひそかにまわつていた長崎奉行所は、この夜、百

